

季報

飯豊

IIDE SABO



土砂災害から地域を守る

～女川第4号砂防堰堤本体の最終打設完了～

～事業着手までの経緯～

飯豊山系砂防事務所管内では、昭和42年の羽越災害において、多くの地域で土砂はん濫により壊滅的な被害を受けました。特に女川流域では、死者行方不明者3名、家屋全壊12戸、全耕地の91%が流出するなど甚大な被害が発生しました。

当事務所では昭和44年より災害復興と再度災害防止を目的に砂防事業に着手し、今日までに181基(女川流域全:12基)の砂防堰堤を整備しました。また、女川では、平成3年度までに3基の砂防堰堤を整備し、引き続き、平成4年度より女川第4号砂防堰堤に着手しました。

～様々な人々の意見が反映されたデザイン～

女川第4号砂防堰堤施工箇所は、自然美が素晴らしい女川峡谷に計画されていたことから、周辺環境の保全について幅広い方々の意見を反映するために

地域の方々だけでなく学識経験者の意見も取り入れながら堰堤のデザインを決定しました。

その結果、当事務所管内では前例のない大暗渠型砂防堰堤を採用することになりました。

～女川第4号砂防堰堤の効果～

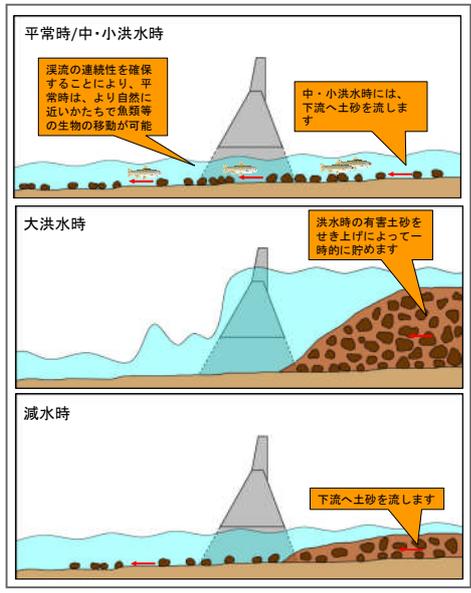
平常時は、溪流および生態系の連続性が確保されるとともに、中・小洪水時は無害土砂を下流へ流下させます。また、大洪水時は、土砂を一時的に貯めることにより下流部への急激な土砂流出に伴う河川はん濫による被害を軽減します。

女川第4号砂防堰堤完成報告	1～2
建設労働災害防止大会開催報告	2
ヘリによる管内流域調査実施報告	3
新発田市、小国町主催の防災訓練参加報告	3
キャンプ砂防2010in飯豊・阿賀野川実施報告	4
土砂災害防災教育説明会の実施報告	5
大里峠越え交流会の開催報告	5
お知らせ、編集後記	6

位置図



女川第4号砂防堰堤が出来るまで



～女川第4号砂防堰堤竣工記念植樹及び現場見学会を開催しました～

平成22年10月26日、女川第4号砂防堰堤本体工の最終打設完了を記念して、関川村女川地区の住民の方々の参加のもと、ヤマザクラの記念植樹、現場見学会、ヤマメ等の放流を行いました。魚の放流では関川村立女川保育園の園児も参加し、雨の中10,000尾を一生懸命放流してくれました。

当日はあいにくの天候でしたが関川村、平田大六村長はじめ、多くの来賓の方々にご参加頂き記念となる式典になりました。



平田大六村長よりご挨拶頂きました。



竣工記念のヤマザクラを植樹している様子



光兎神社前の河原にて魚を放流する園児



参加者全員で協力しました。



安全第一！労働災害ゼロを目指して
～平成22年度建設労働災害防止大会を開催～

平成22年9月28日、関川村村民会館において、飯豊山系砂防事務所工事安全対策協議会による「平成22年度建設労働災害防止大会」が開催されました。

この協議会は、飯豊山系砂防事務所が発注する工事現場等での労働災害の撲滅や保健衛生の向上など、安全で円滑な工事を行うための環境づくりに寄与することを目的として組織されています。

大会では飯豊山系砂防事務所の佐藤事務所長からの挨拶の後、新発田労働基準監督署の長谷川署長より

労働災害防止に関する講話、村上警察署の今田署長より交通安全に関する講話をしていただきました。

その後、安全対策取り組み状況について工事現場からの報告があり、請負業者代表による「安全スローガン」の確認、及び「安全宣言」が行われ、作業条件が厳しい砂防工事現場において、労働災害撲滅への意識をさらに高めながら労働災害防止に取り組むことを力強く宣言し閉会となりました。



労働災害に関する講話をする新発田労働基準監督署の長谷川署長



交通安全に関する講話をする村上警察署の今田署長



飯豊山系砂防事務所の佐藤事務所長より開会の挨拶



請負業者代表による安全宣言

大会スローガン

平成二十二年九月二十八日
飯豊山系砂防事務所工事安全対策協議会
平成二十二年建設労働災害防止大会

「現場に即した新規入場者教育・安全教育（ハロー）を徹底し、工事関係者一人一人が労働安全法規を遵守することにより、不安全行動を撲滅し、労働災害の防止を図る。」

「『安全第一』を基本とし、『たゆまざる努力』をもって安全衛生活動に取り組み、快適な職場環境を目指す。」

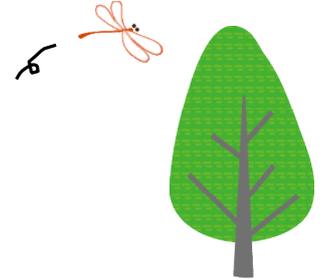
土砂災害を未然に防ぐ ～防災ヘリコプター「ほくりく号」による崩壊地調査を実施～

平成22年10月20、21、29日の3日間にわたり、当事務所管内市町村の事業担当の方々、及び飯豊山系砂防事務所職員の合同でヘリによる流域巡視を行いました。飯豊山系砂防事務所は、荒川・胎内川・加治川の3流域において事業を実施していますが、山間地がほとんどであり、災害時だけでなく、日頃から流域状況等を監視すべき箇所が多くあります。

この3日間で地上では普段確認することが出来ない上流域の崩壊状況等と既設の砂防堰堤が果たしている役割を上空から確認しました。



ほくりく号



現在工事中の滝谷沢砂防堰堤
(新潟県新発田市)



現在工事中の入山第2号砂防堰堤
(山形県西置賜郡小国町)

過去の災害経験を活かす ～新発田市、小国町開催の防災訓練に参加～

新発田市(9月5日)、小国町(10月2日)において総合防災訓練が開催されました。飯豊山系砂防事務所では防災広報活動として、降雨体験装置、地震体験装置、土石流模型実験装置、防災パネルの展示・説明を行いました。

北陸地方整備局管内では、昨今の中越地震、中越沖地震、能登半島地震などを体験し、職員一同、地震時をはじめ自然災害発生時の初動体験、支援体制に対するノウハウを多く持っています。

このノウハウを活かし、地域の方々に地震や豪雨の模擬体験をしていただき、万が一の大規模な地震が発生した場合の災害防止に繋がるアド

バイスを行うなど防災広報を行いました。

今年も多くの地域の方々にご参加頂き、地震体験装置で震度6の揺れを体験するなど皆さんに身をもって自然災害の恐ろしさを認識して頂きました。



「地震体験装置」に乗り込む子供達。震度6の揺れの大きさを実感しました



降雨体験装置「雨ニティー」により羽越災害時の雨のすごさを体験しました



土石流模型実験装置にて土砂災害について説明しました



教室を飛び出し生きた砂防を体験 ～2010キャンプ砂防in飯豊・阿賀野川を開催～



9月9日(木)セラピーロード(温身平)にて

平成22年9月6日から10日(うち、飯豊山系砂防事務所では9月8日から10日の3日間)にかけて、砂防を専攻する大学生または砂防に関心のある大学院・大学・高専の学生を対象に「キャンプ砂防」が実施されました。

この「キャンプ砂防」は中山間地域の現状を実際に体験できる場を全国の学生に提供し、地域の抱える問題点、活性化の支援のあり方、防災対策のあり方を学び、中山間地域における砂防の意義・役割を考えることを目的として実施しています。

今年は『“白い森の国”でブナ林森林セラピーとマタギの文化に触れながら砂防を学ぶ』をテーマに地元の方々の体験談や、地すべり観測機器類の観測方法、現在施工中の砂防施設の工事など広く砂防を学んで頂きました。

平成22年度 カリキュラムの紹介

飯豊管内第1日目

- ・横川ダム(羽越災害を学ぶ)
- ・飯豊山系砂防事務所の概要
- ・土石流模型実験
- ・マタギの文化を学ぶ

羽越災害を学ぶため、H20年完成の横川ダムと隣接されているきてくる館を訪れ、ダムの重要性や羽越災害の被害の大きさを改めて実感しました。

佐藤事務所長から世界と比べた日本の公共事業、税金に関する話題や飯豊山系砂防事務所の概要などの説明を受けました。

引き続き渡部副所長からは、近年の異常気象等による土砂災害の実態や、国土交通省で立ち上げた「TEC-FORCE」の役割・機動性などの説明を受けました。



佐藤事務所長による幅広い講話に聞き入るキャンプ砂防生



横川ダムの堤頂にて榎田専門員より説明を受けるキャンプ砂防生

飯豊管内第2日目

《現場見学》

- ・荒川流路工
- ・工事現場見学(入山第2号砂防堰堤)
- ・玉川スーパー暗渠砂防堰堤
- ・森林浴を体験しながら、砂防施設を学ぶ(温身平)

2日目は現場見学により、実際に砂防施設の効果などを学びました。

また、今年のテーマ通りブナ林森林セラピーに触れながら砂防施設を見学しました。



温身平のブナ林



入山第2号砂防堰堤工事現場にて、窪田建設監督官より説明を受ける。



セラピー案内人阿部さんの話に聞き入る一同



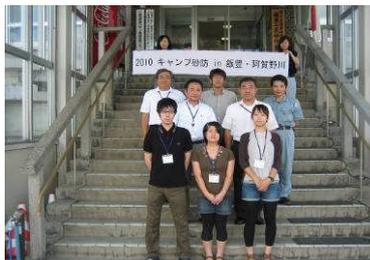
白い森オートキャンプ場が併設されている荒川流路工。

飯豊管内第3日目

- ・意見交換会
- ・修了式

最終日には、キャンプ砂防生と事務所職員との意見交換会が行われました。

大学では学べない現場での実践、環境に配慮しながら事業を進める飯豊山系砂防事務所の取り組み、自然豊かな当事務所管内の素晴らしさなど、多くの事を学んだと意見がでました。



最後に事務所前で記念撮影をしました。



意見交換会の様子。職員が普段気づかない意見がでました。

土砂災害に対する防災意識の向上に向けて ～土砂災害防災教育説明会を開催～

平成22年8月19日、当事務所管内市町村（小国町、関川村、新発田市、胎内市）の小学校教職員を対象に土砂災害防災教育説明会を開催しました。本説明会は、土砂災害に対する防災教育の重要性、必要性を認識して頂き、授業を通して児童に分かり易く説明して頂くことで土砂災害による被害の軽減につなげることを目的として実施しており、今年度は8名の小学校教職員の方が参加されました。

説明会では、実際に授業を行う際に参考となる小学生向けの副読本やビデオ、土石流模型実験装置の紹介を行いました。

また、羽越水害時の痕跡が残って

いる関川村湯沢地区を訪れ、土石流の恐ろしさを再認識し、砂防事業の重要性や施設効果について理解を深めて頂きました。

今回の説明会を機に小学校の総合学習等に「土砂災害防災教育」をテーマとして取り入れて頂き、防災意識の向上と砂防事業の重要性を子供達に伝えてほしいと思います。



羽越災害直後の関川村湯沢地区の様子。



小学校教職員に向けて土砂災害と砂防事業について説明しました。



現在の湯沢地区の様子。被災現場を訪れ土砂災害の恐ろしさを改めて認識しました。

歴史を知り、交流を深める「大里峠越え交流」 ～大里峠越え交流会を開催～

平成22年10月17日に大里峠越え交流実行委員会による『大里峠越え交流会』が開催されました。

大里峠は、新潟県・山形県を結ぶ旧越後米沢街道十三峠の一つで、県境に誇る標高487mの峠です。

この大里峠越え交流会は、毎年10月第3日曜日に開催され、今年で17回目となります。旧米沢街道を歩き往時を偲び、周辺の豊かな自然や歴史と触れあいながら、小国町と関川村の交流を深めるとともに、地域を守る国土交通省や森林管理署等の各種事業の重要性を知って頂くと言う目的から毎年実施されています。

今年も約100名の参加者が関川村の「わかぶな高原スキー場」から小国町の「手の倉口」までの約4kmを歩きました。峠では祠での祈願を行い、散策後の交流会では大里鍋を頂きながら、交流を深めました。



大里峠頂上からの景色。最高です。



登山の様子。越後街道は秋らしく色づいていました。



大里峠はかつて暮らしを支える重要な道として、多くの人や物が行き来した旧米沢街道（越後街道）。明治に入り、現在の113号の元になる道がつくられその役目を終えましたが、今も地域の誇り、観光資源として重要な役割を担っています。



大里鍋を頂きながらの交流会



具だくさんの大里鍋

飯豊山系砂防事務所からのお知らせ

①「土石流模型実験装置」を用いて土砂災害について説明します！！

飯豊山系砂防事務所では、小学校の総合学習の場や地域の催しの会場へ出向き、「土石流模型実験」により土石流の恐ろしさや砂防施設の働きについて説明する活動を行っております。

模型実験装置を見て頂くことにより、砂防堰堤や流路工が整備されている場合と、自然のままの場合の河道や町に土石流が発生したらどうなるだろうか理論式ではなかなか説明できない砂防施設の働きが模型により明らかになります。

もし、「土石流模型実験を見せてほしい」、「土砂災害、砂防事業について説明して欲しい」など要望があれば、[飯豊山系砂防事務所 調査・品質確保課](#)までお問い合わせ下さい！！



7月25日、小国町主催魚のつかみどり大会（りふれにて）



8月19日、土砂災害防災教育説明会（関川村の〜むにて）

② 飯豊山系砂防事務所HPでは災害情報を随時配信しています！！



URL: <http://www.hrr.mlit.go.jp/iide/>

飯豊山系砂防事務所のホームページ上で、災害時の危険が想定される箇所に設置したCCTVカメラによる画像と、水位や雨量を確認することが出来ます。ホームページ上や当事務所管内に設置されている情報表示盤を通して災害時には現場の状況を正確に判断することが出来ます。

また、ホームページでは飯豊山系砂防事務所の事業概要や飯豊山系に関する情報も掲載されています。

まだご覧になったことがない方は一度左のURLにアクセスしてみてください！！

ー編集後記ー

10月末ごろから急に寒くなり、飯豊の山々は、だいぶ色づいてきたと思えば、すぐに雪化粧ははじめました。先日ヘリコプターに乗った際に、山頂付近で雪が積もっているのを確認しました(下の写真)。直に長い冬が始まります。今年はどれくらい雪が積もるのか



《発行元》

国土交通省 北陸地方整備局
飯豊山系砂防事務所 調査・品質確保課
〒999-1363
山形県西置賜郡小国町大字小国小坂町
3-48

TEL: 0238-62-2466

FAX: 0238-62-2613

